

別記  
第1号様式（第14条関係）

環境マネジメントシステム導入報告書

( 宛 先 ) 京 都 府 知 事	平成28年 7月 15 日
住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 京都府南丹市八木町美里紫野1	氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名） 雪印メグミルク株式会社 京都工場 工場長 川越 重寛

環境マネジメントシステムの名称	ISO 14001:2004 (BSIグループジャパン株式会社認証)
適用範囲	牛乳及び加工食品（ヨーグルト、クリーム、デザートなど）の生産
導入年月日	2007年 3月19日 (2005年12月15日承認機関の変更)
認証番号	EMS 99990
基本方針	別紙、環境方針参照
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	1、エネルギー原単位の削減 前年比1%削減 2、廃棄物再資源化率 100%維持 3、廃棄物発生量 前年比1%削減
目標を達成するための取組の内容	1、ハード充填機スカートヒータの停止による電力削減 2、CIPA～Dユニット酸洗浄常温化による燃料使用量の削減 3、ドリンクサーミアアップ量の見直しによる廃棄削減（電力・廃棄物削減） 4、排水嫌気脱脂槽 攪拌方法の変更による電力削減
目標を達成するための取組の進捗状況	1、UHT10 老朽化に伴うUV殺菌機への更新 2、SI調合カク攪拌機の間欠運転による電力削減 3、製造室・屋外照明LED化による電力削減 4、排水ポンプ用モータ更新・INV制御化による電力削減
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	1、エネルギー原単位の削減 73.08k1/千k1 (前年比 99.9%) 【未達成】 2、廃棄物再資源化率 100% 【達成】 3、廃棄物発生量 前年比 95.0% 【達成】 ※ 生産量に占める発酵乳比の増加及び生産量が減少したため、原単位の削減目標を下回る結果となった。
事業活動に係る法令の遵守の状況	関係法規遵守状況は1年に1回確認を実施、環境内部・外部監査も定期的に実施されており関係行政からの指摘等も発生していない。
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	環境方針に則り、環境負荷低減を図ることでより良く環境保全に取り組めた。エネルギー原単位は目標に届かなかったものの、原単位事は昨年よりも良くなった。環境マネジメントシステムの運用に問題は無いと評価した。尚、次年度からはISO14001の改正（2015ver）に伴い、「功と機会」等に留意したシステムの再構築を図るが、これまで通り設備の省エネ対策を実施していくことで目標達成を目指す。

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合のみ記入してください。

別記  
第1号様式（第14条関係）

環境マネジメントシステム導入報告書

( 宛 先 ) 京 都 府 知 事		28年 7月15日
住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 京都府南丹市八木町池上古里1-1		氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名） 雪印メグミルク株式会社 京都工場 池上製造所 製造所長 望月 洋
環境マネジメントシステムの名称	ISO14001:2004 (BSIグループジャパン株式会社認証)	
適用範囲	牛乳・飲料及び加工食品（ヨーグルト・クリーム・デザートなど）の生産	
導入年月日	2007年3月19日（マルチサイト化による：初回2005年12月15日）	
認証番号	EMS99990	
基本方針	別紙環境方針参照	
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	①エネルギー原単位の削減 今年度エネルギー原単位 47.06L/t以下 ②廃棄物量の削減 今年度廃棄物排出量 910t以下 ③リサイクル率の維持向上 今年度リサイクル率 98%以上	
目標を達成するための取組の内容	①エネルギー原単位の削減 庫内照明をLED照明に更新することによる電力使用量削減 冷凍機の不具合を解消することで無駄に消費されていた分の電力使用量を削減 ②廃棄物量の削減 トルラ酵母菌最大活用による汚泥排出量の削減 ③リサイクル率の維持向上 廃棄物の分別によるリサイクルへの転換	
目標を達成するための取組の進捗状況	①急冷庫照明をLEDに交換。急冷庫冷凍機の修理を実施 ②排水処理設備の負荷振分けにおいて前処理設備での処理比率増加を実施 ③新たに発生した廃棄物についても確実に分別を実施	
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	①エネルギー原単位47.06L/t以下の目標値に対して48.00 L/t（未達成） ②廃棄物量削減の目標値910 t以下に対して1059 t（未達成） ③リサイクル率の向上目標値98.0%に対して100%（達成） 生産量の増加に伴い電力使用量や燃料使用量が増加。様々な施策によりエネルギー使用量の削減を行ったが、原単位目標は達成できず。又、排水処理設備の処理状態悪化により、脱水汚泥の排出量が増加。生産量増加に伴う増加分もあり廃棄物量の削減目標についても達成できず。	
事業活動に係る法令の遵守の状況	関連法令の遵守確認を実施。不備が発見された箇所については対応し、問題ない状況である	
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	環境方針に則り、環境負荷低減を図ることでより良く環境保全に取り組めた。エネルギー原単位は目標に対して2%程度増加となったが、原単位事自体は昨年よりも良くなっている。今後も同様に省エネ対策を実施していくことで目標達成を目指す。 次年度は新しい環境マネジメントシステムの下での取り組みとなるが、今まで以上に環境活動に動めていく。	

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。